所属・氏名（総合リハビリテーション学部　リハビリテーション学科　氏名：松浦晃宏　）

	著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概　　要
1	（学術論文） Correlation between changes of contralesional cortical activity and motor function recovery in patients with hemiparetic stroke.《筆頭論文》	共著	2017 年 10 月	Phys Ther Res 20, pp.28-35	論文全体の概要：脳卒中片麻痺患者において，経頭蓋磁気刺激による非損傷側の皮質興奮性変化と上肢運動機能回復の関連を調べた．麻痺手運動中の非損傷側皮質脊髄路の過度な運動誘発電位振幅は，麻痺側上肢の運動機能回復後に有意に減少し，非損傷側皮質脊髄路の活動減少が麻痺側上肢の運動機能と関連することが示された． （当該論文のページ数：8 頁） （当該論文の著者名　Matsuura A, Karita T, Nkada N, Fukushima S, Mori F）
2	（学術論文） Time course of changes in corticospinal excitability after short-term forearm/hand immobilization.	共著	2017 年 11 月	NeuroReport 28, pp.1092-1096	論文全体の概要：24 時間の前腕固定をした際の皮質脊髄路興奮性の経時変化を評価するために，経頭蓋磁気刺激により運動誘発電位をギブス固定中および除去後に測定した．母指屈筋から記録された運動誘発電位は固定開始後 3 時間で有意な減少を示し，固定後 24 時間まで徐々に減少した．その後ギブス除去後の 3 時間でベースライン近くに回復した．短時間の前腕固定は皮質興奮性を急速に減少させ，この変化は運動再開後に急速に逆転することを示した． （当該論文のページ数：5 頁） （当該論文の著者名　Karita T, Matsuura A, Kondo Y, Tomimura K, Nakada N, Mori F）
3	（学術論文） Gait variability analysed using an accelerometer is associated with locomotive syndrome among the general elderly population: The GAINA study.	共著	2016 年 5 月	J Orthop Sci 21, pp.354-360	論文全体の概要：加速度計を用いた歩行の変動性評価が，地域在住高齢者におけるロコモティブシンドロームと関連しているかを調べた．その結果，縦軸における歩行の変動性がロコモティブシンドロームと関連し，加速度計を用いて測定した縦軸の自己相関係数の評価に基づく歩容の変動性が、高齢者のロコモティブシンドロームのスクリーニング方法になる可能性を示唆した． （当該論文のページ数：7 頁） （当該論文の著者名　Matsumoto H, Hagino H, Ozaki M, Tanishima S, Tanimura C, Matsuura A, Makabe T）
4	（学術論文） Magnetic stimulation and movement-related cortical activity for acute stroke with hemiparesis.《筆頭論文》	共著	2015 年 12 月	Eur J Neurol 22, pp.1526-1532	論文全体の概要：急性期皮質下脳梗塞による不全片麻痺患者への反復経頭蓋磁気刺激の効果を運動機能検査と麻痺手の運動に関連する脳電位を測定することにより検討した．その結果，急性期脳卒中患者の非損傷側半球への低頻度反復磁気刺激は急性期脳卒中患者の運動機能を改善させることができ，損傷側半球の運動野と運動前野ニューロンの興奮性を増加させることがその改善メカニズムであることが示唆された． （当該論文のページ数：7 頁） （当該論文の著者名　Matsuura A, Oguro H, Onoda K, Yamaguchi S）